

同窓会会報
第52号

平成5年9月25日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL 0292-59-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

同窓会第二十二回大会 十一月三日開催

場所 鯉淵学園 五番教室

受付 一三時、
一三時、

大会 十三時三十分、
十六時、

常任委員会

懇親会 十六時三十分、

議題

一、報告事項

①平成四、五年度事業報告

② 同 右 決算報告

③ 同 右 監事報告

④その他

二、協議事項

①平成四、五年度事業並びに決算報告承認について

②平成六、七年度事業計画並びに予算について

③鯉淵学園創立五十周年記念事業について

④平成六、七年度役員選出について

⑤その他

尚、大会は、会則によりますと、役員及び各県支部から選出された代議員によって構成されることになっていますが、未だ組織が十分整っておらず、これまでは、代議員を含めた出席者全員で討議し、議決をいたしました。今回も同様の要領で大会をお認め戴きたいと思えます。

大会運営について

大会運営の都合上、出席下さる方は十月二十五日までに葉書で一報下さい。また、同窓会館に宿泊される方に就いても同様をお願い致します。同窓会館で足りなければ、他に泊まることを準備する必要があります。費用は、大会参加費二千元（主として懇親会費）、宿泊費二千元です。当日

の受付でいただきます。会員多数の参加をお待ちしております。掛け下さい。

同窓生の応援を！

教務部長 安藤 義道

一、学園の近況
今夏の気象は異常でした。例年ですと夏期実習は猛暑の中で行われるというのが当り前ですが、今年は梅雨時のような実習風景になりました。また、台風も関東に上陸して、暴風雨の中での実習となりました。
この五年ほど、八月下旬にアセアン四ヶ国（タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア）の男女青年約70名が学科研修に訪れます。今年はペルーの研修生5名も加わって八月二十四日から三十一日まで行われました。例年ですと講義・実験を担当する先生方も汗ふきふき教壇に立つのですが、今年はまったくの様変わりでした。

二、四年制・専修学校に向けて

今年三月に「鯉淵学園の刷新方向」が出されました。同窓会からも副会長の福丸博房氏（9期生）と染谷一氏（24期生）がご多忙な中四回の検討会に参加され、21世紀に向けた学園の将来方向が示されました。その中心的構想が学園の四年制化と専修学校化です。

この答申に基づいて農林水産省とも協議の結果、七月にこの方針が了承さ

れました。ただちに専修学校の手続きに入りましたが、四年制の専修学校はあまり例がありません。もちろん農業関係では初めてのケースです。専修学校というのは学校教育法の専修学校規程に基づくもので、将来的には大学、短大との単位の相互乗入れも期待できます。

平成七年が学園の五〇周年記念です。これに合わせて四年制専修学校に移行するというのが学園の方針です。ただ問題は大学四年の格付けが得られるかということです。実質四年の普及専攻科の卒業生が六十一年度の第一期生から三八名地方上級に採用されています。こうした実績もあり、農林水産省の担当者からはしっかりとした教育実績を残せば人事院との協議に協力するといって頂いております。

三、一層の学生募集に協力を

「鯉淵学園の刷新方向」については農業団体理事から多大な協力を頂きました。また、4年制専修学校化については制度上の難題に農林水産省が多大な応援をして下さいました。

こうして、一応二十一世紀に向けて

形だけは整いました。今後問われるのは中味です。学生の定員確保はもちろんです。教育の成果も問われます。学園の特色は対外的には、試験研究を兼ねた教育ができる点にあるといわれます。この特色は今後共維持されなければなりません。

同窓生のみなさんの応援で、昨年は本科に百四十四名の応募がありました。その他選科に四名、三年編入に四名の応募もありました。今年も夏休みだけで二三名の高校生の学校訪問もありました。三年編入への問合わせもいくつか来ています。どうか昨年以上の応募協力をお願いいたします。農業・農村に愛着をもち、「やる気」のある学生をどんどん送りこんで下さい。

哀悼

- 平成五年
- 一月 三日 石田喜二郎
 - 一月二二日 赤木 正 ⑤ 香川県
 - 一月二六日 藤井 正雄 ① 京都府
 - 二月二四日 渡辺 正信 ⑧ 秋田県
 - 五月 七日 赤星(西村)孝子 ⑦ 茨城県
 - 九月 九日 遠藤 好則 ③② 山口県
 - 福島県 ③②

四、鯉淵学園優先入学案内

鯉淵学園優先入学要項
一、推薦入学の人員

農業科 約10名
生活栄養科 約5名
二、出願受付および選考

(1) 時期 十月十二日(火)～十月二十一日(木)

(2) 必要書類

① 本学教職員ならびに同窓会関係者の推薦書

② 本学園の学生募集要項に記載の通常の出願書類

(3) 選考 書類および作文について選考

三、合格通知

十一月十日(水)に本人あてに通知する

四、入学手続

十二月一日(水)～十二月十日(金)の期間に所定の手続きを行う

五、推薦入学者としての要件

(1) 平成六年三月高等学校等卒業見込みおよびその前年度卒業者

(2) 人物が優秀で本学教職員ならびに同窓会関係者が推薦する者

(3) 高等学校第3学年1学期までの成績評定平均値が3.0以上の者

(4) 入学を希望する次の各科において、その項目のいずれかを目標とし、その条件と資質を備えた人物

(一) 農業科
① 農業およびその関連産業の後継

お知らせ

鯉淵学園同窓会茨城県支部総会

日時 十一月三日(水) 受付 午前十時～・総会 午前十時三十分
会場 鯉淵学園第5番教室
議題 ①平成四・五年度事業報告
②平成四・五年度決算報告
③平成四・五年度監査報告
④平成六・七年度事業計画及び予算について
⑤平成六・七年度役員選出について
⑥その他

当日は、午後から同窓会大会が開かれますし、学園祭も、真つ盛りですから、仲間を誘い合ってお出かけ下さい。お待ちしております。

茨城県支部役員一同

者

② 農業の指導者あるいは技術者

③ 国語および生物に関する素養をもち、自然環境や農業分野での社会活動を志す人物

(二) 生活栄養科

① 農業および食品産業の後継者

② 農村生活の指導者あるいは栄養士

③ 食糧と栄養の諸問題に強い関心をもち、この分野での社会活動を志す人物

支部の動向

京都府支部総会

京都市で開催

平成五年六月十三日(日)、上京九堀川丸田町角のホテル「ニュー京都」を会場に、稲上支部長ほか会員十四人の出

席で開かれ、規約改正及び、役員の変更が行われた。

規約は、総会の隔年制が採用され、二年に一回、奇数年の招集とし、終身会費普及に伴う支部会費納入の簡素化が図られ、本部会費を切り離れた納入方法で、それぞれ、条項整理が行われた。

役員改選では、稲上支部長の勇退が承認され、新しく、四期の藤井文信支部長が誕生したほか、副支部長に正木明(十二期)、地区幹事として、竹村敬子(二六期、京都ブロック)、和田和子(二十九期、南丹ブロック)、岡本嘉明(二十一期、中丹ブロック)、上山重晴(十三期、丹後ブロック)各氏の就任が承認された。

また、幹事のまとめ役である幹事長に、京都ブロックの竹村幹事が、支部長より指名されて、全会一致で承認を受け、京都府支部新体制の象徴として、これからの活躍が期待される。

同窓会からは、岩持事務局長が派遣され、学園、同窓会の近況報告、説明



②岡本 ⑬正木 ⑩竹村 ⑳廣瀬
④藤井 ⑬曾根 ⑪岸本 ⑲和田 ⑯竹村
⑦森田 ⑦岩持 ①稲上 ③杉原 ⑬上山

に当った。出席者は次のとおり。(○内数字は卒期)

- ①稲上 知、③杉原精一、④片山茂、④藤井文信、①岸本久一郎、⑬正木明、⑬上山重晴、⑬曾根 力、⑯竹村敬子、⑰森田愛子、⑱竹村洋一、⑳岡本嘉明、㉑中西栄吾、㉒和田和子、㉓廣瀬絹代。

秋田県支部総会

秋田市で開催

平成五年六月五日(土)、午後二時から、秋田駅前「鎌田会館」に於いて開かれ、広島支部長から規約改正の方向が提案され、大筋で同意が得られ、会議に出席しなかつた会員の意向を確かめながら、年内をめどに決着の方針。

改正の主眼は、支部を県北、中央、県南の三地区に分割して、それぞれに幹事を配置、支部組織の充実、強化を図って、活動の活性化を目指している。

同窓会本部からは、岩持事務局長が派遣され、学園等の近況報告、説明に当るほか、本部活動への積極的支援を要請した。出席者は次のとおり。(○内数字は卒期)

- ④広島 実、⑥鈴木重雄、⑦原田耕造、⑦佐野和男、⑨池田次夫、⑩小西三治、⑬高橋忠生、⑭武藤恒美、⑮小嶋 宏、⑮深沢慶吉、⑰伊東富男、⑳藤原雅記、㉑大高紘二、㉒寺井純子。

岩手県支部の

平成五年度総会、 繋温泉で開催

同窓会本部会長代行
副会長 福丸 博房

岩手県支部の定例総会は、九月十八日(土)、十九日(日)盛岡市郊外の繋(つなぎ)温泉(旅館、山いち)で開催されました。定刻午後四時、総会次第に従い、久慈宗悦事務局長の司会によりすめられ、小川昭伍支部長の挨拶があり、情報報告が行われ、同窓会本部を代表して私の方から、先に決定されました「鯉淵学園の刷新方向」について、今後とりくむ「学園創立五〇周年記念行事」について、そして同窓会活動等について、とくに本部活動に対する支援と本部会費の納入に協力をお願いし、報告を兼ね挨拶をさせていただきました。続いて、議事に入り、五期の杉本文午さんを議長に選出、規約の一部改正、平成四年度事業報告、収支決算、平成五年度事業計画、収支予算、平成五年度会費徴収、徴収方法等について、熱心な討議がされ全員の賛成で承認、決定されました。引き続き役員改選が行われ今期(一期二年)の新役員は、支部長には、高橋利清さん(九期、北上分会)副支部長に芳賀正美さん(十四期、紫波分会)事務局長、久慈宗悦さん(二十四期、紫波分会)幹事は各

分会長、監事に斎藤裕夫さん(十七期、盛岡分会)の皆さんが選ばれ、新旧支部長等の挨拶があり総会は無事終了しました。岩手県支部の会員は132名で、県内を10の分会にわけて、分会活動を通じて、支部の強化に努めている様子が伺えました。

温泉で、ひと風呂浴びて、午後七時から懇談会になりました。懇親会は二期の久保良雄さんの乾杯で始まり、一人約一分間程度で自己紹介と近況を話し、旅館と約束した制限時間をオーバーし、酒を飲み交わし、期別をこえ懇親を深め最後に寮歌を歌い一時会を閉じ、別室で、さらに盛り上がり、初秋の夜を過ごしました。一九日は朝食後、来年の総会での再会を約束し散会しました。最後に、岩手県支部の益々のご発展を祈願して報告にかえさせていただきます。

出席者は、次の通りで敬称は略させていただきます。

- (二期)佐藤 隆、久保良雄、(三期)守屋高雄、佐藤節夫、(四期)鷹嘴 武、(五期)小川昭伍、杉本文午、(七期)佐々木羊三、鈴木 実、(九期)高橋利清、(十一期)大洞 優、(十二期)鎌田一久、(十四期)芳賀正美、(十五期)上杉三郎、(十七期)斎藤裕夫、(十八期)菊池博美、(二十期)斎藤隆、(二十三期)細川隆造、久慈宗悦、(二十五期)細川光悦、(二十七期)佐々木一夫、松本香、(三十期)藤沢勝章、(四十三期)泉沢二彦以上24名です。

青森ねぶた秋田竿灯で寮歌響く

二十一期生 3 回目の同窓会

< 8 月 6 日 ~ 8 日 >



情熱の舞いが夏の夜を熱くする (21期生一同)

九十三年八月六日、青森市の空は我々二十一期生を待ち受けたようにすばらしい快晴。ねぶた祭りが始まる前日までは雨天続きの青森市も祭りが始まると晴天になったという。街はねぶた祭り一色！そんな青森市に鯉渚学園二十一期生が次々と現われる。

山形県出身で青森市で活躍している佐藤士郎君御夫妻のきめ細かい配慮で万事OK。列島最北端の津軽の海、八甲田の山、水、空気、すべて揃えての佐藤君の迎え方、まさに鯉渚学園出身ならではの催しと言うべきでしょう。同窓会々場の「料亭ののぶ」では佐藤君の配慮で準備されていたねぶた衣装に次々と着替える。その中で統々と同期生が現われる。そのたびに拍手、握手、だき合う同友の姿、「元気でいたか！元気でよかったなあ！会えてよかったなあ！」繰り返し／＼語る仲間のはまさに二十七年ぶりに対面する親族そのもの。

過去二回の同窓会で五年ぶり、十年ぶりという方もおりまじょうが初めて参加する方はまさに二十七年ぶり。夫婦での参加、家族そろっての参加、単身での参加、現われるたびにオッスの声！この声が開こえるたびに大拍手。そんなこんなしている内に参加者全員(同窓生三十四人、家族の方十二名)がねぶた衣装にさま替り。情熱と伝統が一体となったねぶた祭り、ゆく夏を惜しむかのように大地をうねる。さあ鯉渚学園二十一期生ねぶたがスタートした。ねぶた衣装姿での同窓会は、仲松の司会で進行、岩手県久慈市の司会議員大沢君の開会あいさつ、佐藤士郎君の歓迎のあいさつ、そして宮崎県の杉田君、千葉県の前田さん、御両人の乾杯で祝宴に入る。



夏を惜しむように一心不乱に舞う

ねぶた姿での同窓会は二十一期生が初めてだと言っても過言ではないでしょう。あの内原町の学園で同じ屋根の下で同じ釜の飯を食べて過した同友が二十七年ぶりに同じねぶた衣装姿で盃を汲みかわす会場は思い出話で満声。沖繩県からは島末子さん(旧姓石垣)北海道からは宮川博敏君等が参加、南から北から集まった同友は、大声でさわぐ者もおれば、涙ながらに語る者もあり同窓会ならではの風景そのもの。

宴会も盛り上がり楽しく歓談の真最中「寮歌斉唱」のかけ声、二十七年ぶりに肩をくみ合って寮歌を大声で歌った後、さあねぶた会場へ！ねぶた祭りの会場は数十万人の人並。人々人々

く、その中へ二十一期生の団体がのり込む。ラッセー、ラッセー、ラッセーラッセ、ラッセーのかけ声で祭りにとけ込む二十一期生の踊りは本番生中継。学園で鍛えた体と心は四キロもの踊り会



ねぶたの酒はうまいなあー

場をものともせず全員が無事全踊。本場にすばらしい日本の祭りねぶたに参加出来てよかった。祭りが終り疲れて帰ったホテルでも二次会、三次会、語っても語っても行きつき処知らず午前四時まで。それでも明朝は八時起床。佐藤君が手配したレンタカーで秋田県へ向う。

すばらしい奥入瀬渓谷を満喫しながらの車中はガイドさんいなければ、

カラオケもないが、運転手さんのきめ細かい配慮で全員がわき合い合いで満足。

十和田湖を後に秋田市へ。秋田の街も快晴、竿灯で祭り一色。ホテルに着くと二日目からの参加者がまっつておりここでもまた握手とだき合う姿は前日と同じ。中でも都合で参加出来なかった岡部君の娘さん二人（長女、次女）はお父さんに代って来館。「同窓生の姿をビデオに撮ってきてくれ」と言われて来た二人はビデオ撮りに懸命。一人一人がカメラに向かって岡部君に語りかける姿はまるで政見放送録画取りそのもの。秋田の名物ハタハタの天ぷら



稲穂に豊作を願う秋田竿灯

を始め、数多くの珍味料理を前にしての懇親会はまたまた大盛会。都合で参加出来なかった同友と諸先生方からのメッセージや祝電を披露するたびに盛大なる拍手と同じに「会いたかったなあー」の声が続々……。

懇親会も盛り上がりの中、ここでも又肩組み合って寮歌斉唱してから竿灯へ。秋田の竿灯はテレビでは見ているが現地で見るとは始めてだという肩が大半。とにかくすばらしいの一言。

夜空にゆらめく光と影、街を練り歩く人の波、沸き立つ歓声、響き渡る笛や太鼓に夏の到来を実感し、短かい季節を豪快に彩る北国の夏祭り。こんなすばらしい「青森ねぶた」と「秋田竿灯」を舞台に鯉淵学園二十一期生は同窓会を開き寮歌を響かせながら楽しみました。僕は言いたい。「今回の同窓会に参加出来た方は得をした。都合で参加出来なかった方は損をした」と。それほど祭りと言いつつ、懇親会と言いつつすばらしい同窓会であったことと信じます。

次回は沖縄県で（五年後）

懇親会の席上、恒例で次回の会場を決めておりますが、秋田の懇親会場で協議した結果、次回は琉球の風、首里城の里、沖縄県で五年後の一九九八年に開催することに決定いたしました。

沖縄県は僕の故郷でもあり、情緒豊かな島です。島さん、徳田さんを始め歴代先輩方、後輩方とも会えることで

しよう。どうか五年後は同窓生全員が家族づれで沖縄県で会えることを楽しみにしております。

こんなに同窓会が盛大に開かれるのもみんなが体を大事にして元気で活躍しているからだと信じます。

どうかこれから先も体を大事にして五年後、十年後、十五年後の同窓会に元気で参加されることを祈ります。

後になりましたが、今回の同窓会開催に際しましては多大なる御尽力を下さった佐藤士郎君に敬意を表すると同じに都合で参加出来なかった同友と諸先生方から励ましの手紙や祝電等を頂き誠に有難く御礼申し上げます。又同窓会事務局長の岩持先輩を始め、事務局のみなさんには学園の近況報告等の資料を頂き誠に有難く御礼申し上げます。以上乱文にて二十一期生同窓会報告いたします。



次回沖縄会場の成功を期す
佐藤君 島さん 仲松

茨城 仲松晃市

烈震の奥尻島から「元氣な便り」

七月十二日夜、北海道南西沖地震で壊滅的な被害を受けた奥尻島の住人、二期、前田敦雄会員から、七月二十七日、千葉県支部の同期、井上義明会員を通じて、無事の便りが寄せられました。

前田会員は、昭和二十二年卒業と同時に、北海道奥尻町宮津に入植、以来四十五年間、北方酪農経営に専心、大成のところ、先般の地震に遭遇されました。幸い、奥尻島北部の高台に住していたので、地震による打撃は大きかったものの、津波や火災からは免れ、家族共に無事であるとの連絡です。本当に、不幸中の幸いでした。前田会員から、井上会員への復信を紹介して、お見舞いといたします。無断掲載をお許し下さい。

無事 御見舞どうも有難うございました。家族共々元氣ですから御安心下さい。まだ余震はつゞいておりますが、水も電気も電話も使える様になり、大分復旧作業が進んでおります。が、余りに被害が大きいため、二週間すぎた今も、また「ガラクタ」の山が残り、行方不明者が四十九名とか。今日は、両陛下が空より訪れ見舞って下さいます。幸いにも、私

の場合は、山の上の牧場の生活でしたので、何の被害もなく過せましたが、いつの場合も、地震につきものは津波であり、交通寸断であり、火事と水不足、情報不足であり、之が東京湾での事であつたら、どうだつたらうと肌寒いものを感じます。御多幸健在をお祈りし、先づは御礼申し上げます。取り急ぎ

なお、七月十四日、松前町在住の二十四期、米沢智信会員、木古内町在住の四十二期、曾田千代美会員とは電話連絡で、無事が確認されましたが、江差町の通二、滝沢孝会員とはつながり仕舞いです。ご連絡下さい。

また、度重なる台風の襲来で、特に九州地方の皆さんは、被害少なからぬことと痛心、お見舞い申し上げます。過ぎたる夏の異常には、程ほど困り果てたとしか申し様がありませんが、何事にも挫けじ、鯉淵で鍛えた精神力をもつて跳ね返し、初志大成を祈ります。

事務局長 岩持文彦
(現住所)

〒043-14 北海道奥尻郡奥尻町字宮津
三七八一—二
前田敦雄(二期)

電話〇一三九七—二二七六八

第12期生同期会を浅虫温泉(青森県)で開催

第12期生の同期会を鎌田君の協力をいただき5月15日に青森県の浅虫温泉(椿旅館)で開催しました。第3回までは東京と茨城で開催しましたが、旅費の公平を期するため、第4回は京都、第5回は別府、そして今回は青森で開催しました。

第12期生は卒業当時62名で少人数でしたが、六名死亡し、現在五六名のうち三〇%の一七名が出席しました。

学園同窓会から常任理事の岩持文彦さん(7期)の出席をいただき、九州の黒木君、大賀(旧姓橋口)君、新田(旧姓山口)君は奥さん同伴で出席しました。

翌日はりんごの花が満開の津軽平野、残雪の八甲田山の観光に出かける者、北海道に渡る者、死亡した平賀君の墓参りに岩手県花巻に出かける者、それぞれの行動予定に従って別れましたが有意義な同窓会でした。

今回は茨城の予定です。還暦の意義ある年になりますので、多数の出席を期待いたします。

なお次の方は通知文が返送されてきました。
住所をご存知の方は私までご連絡下さい。

岩崎 豪君、西牟田和信君、井川幸雄君、中島友市君

(本宮)

